

研究代表者 所属・職：教育・心理学部・こども学科

氏 名：松元 佑

研究課題名：幼児期の子どもは対称性をいかにつくるのか：配分課題からみた対称的關係認知の発達について

研究の概要

本研究は、幼児期の子どもが「同じ (equivalence)」という關係概念（以下、対称的關係）をどのように理解し、どのような発達的变化を示すのかを明らかにすることを目的とする。

關係概念とは、対象間の關係性を抽出する高次の認知機能であり、その発達的变化を解明することは認知発達研究において重要である。特に、田中（1987）の理論に基づき、行動的操作の内面化が關係概念の成立にどのように寄与するのかを検討する。

本研究では、色の異なる積木と皿を用いた配分課題を通して、「同じ」概念の理解における発達的变化を分析する。さらに、新版 K 式発達検査 2020 を併用し、「同じ」概念の認知能力と幼児期の数概念の理解との関連を探る。これにより、「同じ」概念の発達の基盤を理論的かつ実証的に明らかにし、幼児教育や発達支援への応用的知見を提供することを目指す。

達成状況・成果内容

本研究は、幼児期の子どもが「同じ (equivalence)」という対称的關係概念をどのように理解し、どのような発達的变化を示すのかを明らかにすることを目的として進めてきた。本年度における達成状況および成果は以下のとおりである。

1. 研究環境の整備

本研究の中心となる実験課題（色の異なる積木と皿を用いた配分課題）、および併用する新版 K 式発達検査 2020 を円滑に実施するため、必要な検査道具および実験用具の選定・購入を完了した。これにより、データ収集を開始するための物理的な研究基盤を整備することができた。

2. 先行研究の整理と論文化

本研究を理論的に位置づけるため、これまでに蓄積してきた関連研究の知見を整理し、論文としてまとめる作業を進めている。特に、田中（1987）の理論に基づく行動的操作の内面化と關係概念の成立との関連について、先行研究を体系的に検討することで、本研究の意義と独自性をより明確に示す準備を進めている。

3. 倫理審査への対応

幼児を対象とした実験研究を実施するにあたり、研究倫理への配慮は不可欠である。現在、所属機関の倫理審査委員会に申請を行う予定であり、申請に必要な書類の準備を進めている。倫理審査の承認を得た上で、速やかにデータ収集に着手できる体制を整えている。

4. 外部研究資金の獲得

この制度の申請書類をもとに、日本学術振興会の科学研究費助成事業「基盤研究 (C)」に申請を行った結果、採択に至った。これは、本研究の学術的意義と計画の妥当性が外部評価においても認められたことを示すものであり、今後の研究遂行にとって大きな成果である。獲得した研究費を活用することで、より充実したデータ収集および分析が可能となる見通しである。